

秋田市議会会派「そうせいと維新」は
無所属である小松健・菊地格夫・藤井翼と、
日本維新の会所属の若松尚利による会派です。

会派初の
一般質問
特集号

詳細は中面へ▶

編集長／会派 そうせいと維新 副会長

若松尚利

わかまつなおとし

SNSで情報発信中!!



LINE 公式
友だち
募集中

TOPIC

11月議会トピック

大森山動物園子ども有料化阻止!!

11月議会では大森山動物園の料金改定の条例が否決となりました。市が提案する条例の否決は約30年ぶりのことだそうです。今回の否決では所管の教育産業委員会の副委員長という立場ではありましたが、おかしいものはおかしいということで、積極的に動き、当局に意見を言い、議会の多くの皆さんと共闘し、結果、多くの賛同を頂き否決とすることが出来ました。

▶ なぜ大森山動物園子ども料金有料化に反対なのか？

元々、燃料費や物価が高騰しているなか、値上げ自体は反対ではありませんが、次の点を指摘させていただきました。

- 他の施設の値上げは激変緩和ということで1.5倍までであるが、高校生が0円から800円は上がりすぎではないか？
- 子ども無料化は教育無償化、給食無償化などの現在の子育てファーストの政策を先取りするものではなかったか？
- 採算性も大事だが、動物園はそういう視点だけで見る施設ではないのでは？
- 元々、県立児童会館付属児童動物公園として設立された経緯からも、子どもたちが命を学ぶ場であり普通の娯楽施設などとは違う性質の施設ではないのか？
- 平成14年に動物園条例を子どもシンポジウムなど重ねて作り、立ち位置をしっかりと決めての子ども無償化であったのを簡単に覆して良いのか？
- しかも穂積市長が就任後の平成26年にこれらの思いを受け止め、わざわざ高校生を無償化に追加したのではないか？
- 子どもから料金を取る必要があるほど、秋田市にお金がないのであれば、新たな開発やスポーツ施設を作るべきではないのではないか？
- 上げる必要があるなら大人料金をもっと上げれば良いのでは？また70歳以上が無料のまま子どもが有料化はあり得ないのでは？

当日券一般1.09倍
高校生は実質800倍!?

	入園料	
	現行料金	改定案
個人 当日券	一般	730円 → 800円
	高校生	無料 → 800円
	中学生	無料 → 400円
	小学生	無料 → 200円
個人 年間 パスポート	一般	1,250円 → 2,000円
	高校生	無料 → 2,000円
	中学生	無料 → 1,000円
	小学生	無料 → 500円

過去の議事録やニュース記事を掘り返してこういった意見を当局にぶつけました。

▶ 当局からの泣き。異例の再審査。

委員会での否決後、全ての審議を終えた後に、当局から「説明に漏れがあった」旨の申し出がありました。「どうしても」ということで2日後に異例の再審査に。当局が説明漏れていたとしたのは「小中学生にクーポンを出します」というもの。そんな大事なものを説明し忘れる？というの当然抱く疑問。2月議会でも複数の議員に追及されることに。実際は分かりませんが、反対に慌てて上層部が慌てて決めたのでは？という疑問は当然わくわけです。しかもこれがお粗末な提案で、枚数などの詳細が決まっていない、高校生は置き去り。これでは…ということで、各委員ともに結論は変わらず、1対6で反対。その後の本会議でも反対多数で否決となりました。この提案は来年以降も出て来ると思います。油断大敵です。



9月議会が若松尚利の当選後初の一般質問となりました。これは会派「そうせいと維新」としても初の一般質問でもありました。各質問と市からの回答をまとめました。

市長の政治姿勢について

電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金などの支給は市長が専決処分を行いスピード感をもってすすめた他市と比べると…

豪雨災害対応だけでなく、物価高騰対策や新型コロナウイルス感染症対策などにおいても、スピード感を持って取り組めたのではないかと、例えば「子育て支援全国一を目指す」「地域の平均年収を1.5倍にする」など、市長が取り組みたい課題等に対してインパクトのある強いメッセージを打ち出すべきではないかと

子どもの医療費完全無料化や帯状疱疹ワクチンの接種費用の助成など、財政上の理由から本市で実施していない施策について、制度改正の要望等を含めた国や県への働きかけは適宜適切に行っているのか？

秋田市では予算的に厳しいという話も出て来るが、例えば基準財政需要額に加えてもらう、国がある程度負担するカタチを作るなどの考え方もあるのでは？

今後も迅速な事業実施に努めるとともに、市長会などを通じて積極的に働きかけていきます。

身を切る改革等について

人口が90万人台となった秋田では行政の無駄を省くべき。県内全体で約450人の地方議会議員がいることに対する県都の首長としての考えはどうか？また職員数を含めた市役所の規模をどのように縮小していく方針であるのか？

議員定数や議員報酬、これらの改革こそが維新の第一目一番地。身を切る改革で維新の議員は報酬から積立てたお金を全国の被災地やウクライナなどに寄付をしております。7月の水害後、五城目町に1000万円の寄付を行いました秋田市においては寄付を申し出ましたが断られてしまいました…

市長の退職手当をさらに減額する、またはゼロにする考えはないか

様々な取り組みを行い改革を進める吉村大阪府知事など維新の首長は身を切る改革として1億2千万にのぼる予定の退職金を辞退していますが…

(市長は答えず)社会経済情勢などを踏まえながら大局的に判断されるだろう。

このたびの豪雨災害への対応等について

▶水害対応について

本市が所有する災害対策用排水ポンプ車の稼働状況はどうであったか、また、出動基準や必要な台数について、今後、検討する予定はあるのか。

古川排水樋門、新屋樋門、八幡田と水口地下道で稼働した。検証結果などを踏まえ、追加配備の必要性について検討してまいります。

カミさんの地元、鳥栖市では普段子どもたちがボール遊びなどをしている多目的広場が大雨時に一時的に水が溜まるようになっているところがあります。後から作るには雨水管の取り直しなど難しいが、駅東や楢山にあれば…

他自治体において、地域の公園を大雨時の調整池にしている事例があるが、本市でも整備を検討してはどうか。

改修が大規模となること等から、今後、関係機関と連携し検討してまいります。

続きはWEBで ※秋田市消防として国際救助救命競技会に参加してはという提案や、災害協定に基づき協力いただいた各市町村の職員や派遣された経験のある秋田市職員からのノウハウの吸い上げが充分だったかも質問しました。

▶被災者支援・情報発信について

市内外の被災地を回り、被災された方、たくさんのボランティアの方からお話を聞きました。とにかく秋田市の情報発信は遅かったと多くのお叱りを受けました。

続きはWEBで ※民間団体との連携方法や市民サービスセンターや巡回車両による支援物資の配布、大牟田市や福島市が先行するペット同伴避難のルール作りの必要性、被災した商店等との支援について質問しました。

続きはWEBで ※秋田市では各部門が直接ネットで発信できるが、災害時に担当部門はてんでこまい。情報発信に専念する広報監のような職をおくべきでは？また情報発信の勉強会や市民に自助・共助をお願いしたい部分を広報しておくべきでは？と質問しました。

外旭川まちづくりモデル地区整備事業について

外旭川地区に新しい商業施設を誘致し開発したい。そういうことであれば賛成するかは別として理解は出来ます。ただ「まちづくりのモデル地区をやります」と言われても、どうしてもピンと来ません。商業施設を作るというゴールにどうすればたり着くか、その理由づけに一生懸命話をひねっているのではないかとすら思えます。

モデル地区の位置づけは「多核集約型コンパクトシティの考え方を基本としつつ、地区内での実証的な取組で得られた成果を広く他の地域にも波及させる」としているが、本来の意味でのモデル地区とは、実施する事業を横展開することではないのか

他都市で中心部や駅前立地型のモールが整備されている状況の中、外旭川地区のような郊外型モールの整備は先進的なまちづくりのモデルと成り得るのか？

市内の各地域ごとの特性等に合ったものを広げていく。単なる民間事業者の開発計画ではなく、官民連携による将来を見据えたまちづくりのモデル地区だ。

岡山や北海道の旭川では駅の真横に、仙台も中心部の大学跡地での計画になっているなど、最近ではイオンも中心部立地型が多いように思います。すでに複数のモールがあるなかで、いくら新しいスタイルの商業施設なのだとしても今になって郊外に新たに作ることは「モデル」になるのでしょうか？他の市街化調整区域で展開する道のりが見えないのにモデル地区なんだろうか…

ゼロカーボンや、AIやICTの活用をうたっているが、それらは、本来、ハード面での新しい都市開発を不要とするためのものではないのか？

こういった疑問は、まず開発したいという気持ちがあり、そのための理由づけを探して流行りの言葉を盛り込んで、それらしい企画を立てているのではないかという疑念が浮かびます。

続きはWEBで ※古民家カフェなど市街化調整区域での既存施設活用の事業が断られるケースとの公平性についても聞きました。

▶新スタジアムについて

民設民営といながら県と市が2/3出す計画です。であればイオンのための外旭川への立地ではなく、元からのスポーツゾーンである八幡橋では…？

現在の県・市のスタンスとしては、あくまでも民設民営であるとして市民の疑問への回答を避けている一方、事業パートナーからの提案では公費負担分が大きいように感じるがどうか

観戦の行き帰りの買物、勝った負けたで呑むお酒もイオンタウンがほとんど持っていく様子にみえます。イオンタウンが建設費の全額を出すというのなら別ですが…

新スタジアムの整備による経済波及効果について、現在の構想では事業パートナーが恩恵を受ける部分が多すぎと思うがどうか？新スタジアムの耐用年数はどの程度を想定しているのか、その間に事業パートナーが撤退したり、ブラウブリッツ秋田が解散・合併するケースなどは想定しなくてもよいのか？

仮に50年程度使うとした場合、高齢者が半分以上いる人口が15万人程度の市で支えることも想定しなくては。以前のスタジアム整備構想策定協議会の報告書では細かい部分を指摘しながら、当初あった3案をあたかも潰そうとしているようにも見える一方で、同じ基準で測れば外旭川もダメであるように自分には見える…

外旭川地区の地盤やアクセスの問題など、新スタジアム整備構想策定協議会報告書に記載のものと同様の視点で評価しているのか？

現時点では、外旭川地区以外で候補地を検討することは考えておりません。

県立体育館が建て直され、バスロータリーも整備される八幡運動公園内でサッカーもバスケも観られるのが理想的では？ブラウブリッツ秋田の岩瀬社長も可能と話していたASPスタジアムを改築あるいは移転してはダメなのか？秋田大学敷地案であれば隣接するJR宅用地も活用するケース、あるいは駅東口直結や、日産スタジアムのように太平川に対する遊水池機能付きでノースアジア大学付近も考えられるのでは？

子育て支援と安全安心な暮らし

山形市で整備し、好評を得ている、シェルターインクルーシブプレイス「コバル」のような屋内遊戯児童施設を本市でも整備する考えはないか？

屋内遊戯児童施設を整備することは考えておりません。秋田市内ではALVEの子ども未来センターや県の児童会館はありますが、雪の時や猛暑のなかでも子どもたちがノビノビと安全に遊ぶこのような施設がもっとあっていいはず。そして子どもたちが元気に育ってもらうために同じ様な事故で同じように子どもたちが怪我をしたり亡くなる事故が全国で続く「コピペ事故」も防ぎたい。出生率を上げる対策も大切ですが、今いる子どもたちを無事に大人にする取り組みも大事です。

いわゆる「コピペ事故」対策は行われているのか、また、日本技術士会が取り組んでいる「かかりつけエンジニア」を導入する考えはないか？

今後も施設の安全確保に努め、安全安心な教育環境の整備に取り組む。

続きはWEBで ※クアドーム「ザ・ブーン」の段差等で、身体の不自由な方などが使づらい状況から市有施設を改めて調査するべきという質問もしました。

歩いて暮らせて、観光できる魅力的なまちへ

▶中心市街地の活性化について

クルマに頼らず暮らせ、観光でき、またそこで稼げる街であり続けることが、これからの時代に求められているものだと思います。

中心市街地にマンションやホテルを建設する際、地元商店街の連続性を維持するため、事業者に対して低層部にテナントスペースを設置してもらうよう誘導してはどうか？

八王子では行っている施策。しかし秋田市中心部はホテルやマンションによって商店街の連続性が途切れている現状があります。市の顔でもある広小路の西側の端が両方ともマンションの立体駐車場になってしまっていることをなんとも思わないのでしょうか？

ルールづくりが難しいことから、考えておりません。

秋田市公営駐車場を一定程度無料化する考えはないか、また、広小路や中央通りに無料の駐車スペースを造ってはどうか？

岡山駅前に出来たイオンは買い物をしなくても平日2時間無料。車をとめて既存のデパートや飲食店に行き、ついでにイオンで買い物して帰るとWin-Winの関係が築けています。また敦賀市内の国道8号線には無料の駐車帯が設置されています。夜にはラーメン屋台が並び非常に魅力的です。

秋田市自転車等の放置防止に関する条例における規制を一部緩和し、歩道上に駐輪ラックを設置することにより、短時間の路上駐輪が可能なエリアを設けてはどうか？

自分が高校生の頃は中心市街地のファーストフード店やゲームセンターなどに遊びに行っていたんですが、いつからか行かなくなったのは自転車で行きにくくなったからだと思えます。地下駐輪場はそれはそれでありがたいのですが同一平面からのアクセスのほうがはるかに魅力的です。

無料駐車スペースや路上駐輪が可能なエリアを設置することは考えておりません。

▶観光で稼げるまちへ

秋田市にはまだまだ埋もれている観光資源があります。残念ながらまもなく消えてしまう横町の雰囲気も観光客にささるものです。

八橋油田やL字型の茅葺き古民家、昔ながらの横丁など、あまり整備されていない観光資源を、案内パンフレットの作成や、移動手段の確保などにより観光に活かす考えはないか？

また大阪ではホームレスが集まりなかなか遊びに行きにくかった大阪城公園が民間の力も借りて、今では若い家族連れが集まるスポットになっています。

民間活力による千秋公園及び大森山公園の活性化をもっと進めると思うがどうか、また、これらの公園を主会場として本市で全国都市緑化フェアを開催するよう関係団体に働きかける考えはないか？

現段階で都市緑化フェア開催を働きかける考えはありませんが、隠れた名所の魅力については効果的に発信してまいります。

続きはWEBで ※SLだけではなく、おもちゃ等でも親しまれた初代「こまち」、岡山で足回りだけ残る「秋田市電」など市民に馴染みがあるのに保存されていない車両を秋田機関区跡で展示すれば泉外旭川駅の利用促進にも繋がるのではという質問もしました。

▶公共交通について

公共交通への不満も選挙中によく聞いたものです。特にバスに対する不満が多いのですが、秋田市の場合、あくまでも運営は民間業者なので、なかなか改善にいたらない部分があります。交通局・市営バスがあった頃は様々な先進的な取り組みをしていた秋田市ですから、もっと公共交通に力を入れていただきたいと思えます。

公営交通、特に秋田市内のバスの運営について市として改めて考える気はないか、また、マイタウンバスや中心市街地循環バスの運行も含めたバス事業者の選定に当たり、もっと競争原理を取り入れた選定の方法を検討してはどうか？

路線バスに当たっては、バス事業者から求められるがままに補助をしているように見えるが、便数の確保や路線維持などの条件づけはなくてもよいのか？

将来にわたり安定的に運行を継続できる環境を整えていきたい。

本年4月に改正された、いわゆる地域公共交通活性化再生法にタクシーも位置づけられているが、運転手確保、交通系ICカード決済など、バスと同様の支援を行うべきではないか。

インバウンド客にむけて通訳の出来るタブレット端末の整備なども検討して欲しい。宇都宮では国内初の完全新設のLRTが走り出しました。秋田でーから鉄軌道系の交通機関を作るのは難しいですが、以前はモノレールの計画もあったと聞きます。一足飛びに整備は難しくても幹線系のバスは新しい取り組みをしても良いのではないのでしょうか。

バス運転手の成り手不足の中、専用レーンを用いた自動運転バスの運行は実現性が高いと思うが、市で運営する考えはないか。

現時点で市が運営する考えはありませんが、引き続き自動運転の動向は注視していく。

市議会への関心を高めるために

投票率の向上を目指す取組として、他市で行われている選挙割を市内事業者にも実施してもらうため、投票済証明書を発行してはどうか？

「公務員の議会答弁言いかえフレーズ」という本には議員に納得してもらおう回答として「本市では無理です」を「他都市の動向を注視してまいります」と言い換えるなどのテクニックが紹介されていましたが…

本会議における一般質問等に対する答弁においては、「他市の事例を注視しながら検討を進めてまいります」といった定型的な言い回しが散見されるが、もっと議会に関心を持ってもらうためにも、市民にとって分かりやすい表現やその後の検討状況の発信など、対応を工夫してはどうか。

今後も適時適切な情報提供に努めてまいります。

こちらの質問にどう回答があるか楽しみにしてたのですが、普通に回答されてしまいました…

選挙の時に演説で話したこと、チラシでふれたことなど各項目から少しずつピックアップしただけで文字数オーバー気味でした。また、次の機会、あるいは委員会の質疑等で皆さまの意見、声を市長はじめ当局に届けたいと思います。

質問導入時のマクラや、お互いに原稿無しで反射神経が問われる一問一答形式の再質問など、質問と答弁の全文はこちらから▶



いい政策は全国から、世界から。

皆さんに託していただいた立場を活かして、様々な視察や交流を行い、市政への提案に反映してまいります。
会派としての視察のほか、議連での視察なども積極的に行っています。

宇都宮中核市サミット



会派メンバーと宇都宮市で開催された中核市サミットに参加しました。維新の新人研修で出会った議員とも再会。来年は秋田市での開催です。

スタジアム視察



宇都宮では郊外の陸上競技場と、LRTから近いサッカー専用スタジアムの二つを視察してきました。アクセスの良い専用スタジアムは魅力的です。

LRTなど公共交通視察



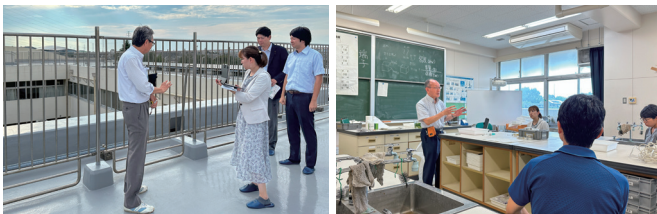
公共交通はこれからの時代に重要な課題の一つ。宇都宮に開業したLRTはもちろん、中心部が無料のLRTや移動データを分析したバス再編、未利用の貨物線を使った事例など国内外の先進事例を研究しています。

オーストラリア州幹部と省エネカーと



次世代モビリティは今後の秋田市の成長に資する産業です。ソーラーカーの世界大会の視察では州政府幹部とも懇談しました。公共交通の先進事例として一般質問でも取りあげたアデレードも訪問しました。

【子どもの事故予防】学校かかりつけエンジニア



少子化のなか、生まれ来てくれた子どもたちが事故で亡くなることは避けたい。そんな思いで、子どもの事故予防地方議員連盟で、若松は地域対策室の副室長と東北地区担当をしています。これまで学校での事故を未然に防ぐ活動や子ども用自転車ヘルメットの研究などに参加しました。

【子どもの事故予防】子どものヘルメット着用



お困りごと、秋田市へのご提案、お聞かせください。



おひとりでも構いません。お呼びください。

ご近所やサークルの集まりなどでのランチミーティングなどなど、ちょっと話を聞いてみたい、あるいは市に文句を言いたいみたいなことがありましたらお気軽にどうぞ。

議会見学に来ませんか？

本会議や委員会はどなたでも傍聴できます。事前申し込みは不要ですが、もし不安であればご案内します。また閉会中も議場や会派控室、議会図書館などご覧いただけます。ぜひこちらもお声がけください。

なんでもお気軽にご相談ください。

市政のことはもちろん、これは市の管轄かな？と悩むものも、お気軽にご相談ください。EメールやSNSのDMでもどうぞ。

